

郷土史への扉



富吉榮二は明治三十二（一八九九）

年に現在の霧島市国分清水で生まれ、中央高校の教師でしたが

2年で退職します。その後、地主から土地を借りて田畑を耕し、借りた分の料金を支払っていた小作農の人々の権利向上に努め、農民組合を組織化し、「小作争議」といわれる反政府活動を指導しました。そのため十数回検挙されています。それでも農民の支持を受けて清水村議に当選し、昭和二（一九二七）年に鹿児島県議会議員に当選、昭和十一（一九三六）年の第十九回衆議院議員総選挙で初めて衆議院議員に当選しました。

そして翌年の第二十回総選挙では社会大衆党から出馬し、二回目の当選を果たします。しかし、昭和十三（一九三八）年に国家総動員法の制定、同十五（一九四〇）年に大政翼賛会が結成さ



霧島市市民会館前広場にある富吉榮二の石碑

れると、所属していた社会大衆党をはじめ、ほかの政党も解散します。これにより、政党政治はなくなり、民意が反映されにくくなったため、議会政治は事実上否定されることとなりました。第二十一回総選挙は昭和十七（一九四二）年に実施されました。この選挙は一般的に「翼賛選挙」と呼ばれます。太平洋戦争中で唯一の衆議院議員の選挙です。この選挙では戦争に協力をす

いました。これまでは、反政府の候補者の演説会などに私服の警官が政府に批判的な意見を言わないかチェックし、もし発言があった場合は、治安維持法違反で解散させていました。この選挙から、県は翼賛議員候補者が当選に有利になるように働きかける文書を市町村へ発送しました。また、農民組合系統の候補者などに対して、県知事は特別高等警察（社会主義運動の取締りを

が明確になったのです。この結果を受けて再選挙となりましたが、結局落選してしまいました（鹿児島2区選挙無効事件）。昨年でしたか、この事件はNHKでドラマ化されたので、ご覧になった方も多かもしれません。戦後、昭和二十一（一九四六）年には衆議院議員に復帰し、片山内閣で商工務次官、芦田内閣で通信大臣（現在の総務大臣やJ.P、N.T.Tなどが関

農民の権利を訴え続けた富吉榮二

る者かしない者かの基準をもって候補者を大政翼賛会が推薦・非推薦を決定し、推薦した候補者が当選するように援助をしました。さらに、選挙の直前に「翼賛政治体制協議会」が結成されており、選挙がさらに有利になるようにしていきました。

この時の衆議院議員、市町村会議員の選挙では大政翼賛会から推薦された候補者を「翼賛議員候補者」と呼んで

主な目的とした警察）を利用して妨害する干渉を行いました。

民衆の支持を受ける富吉は、もちろん大政翼賛会の候補者ではありませんでしたので、さまざまな妨害を受けて落選してしまいました。富吉は選挙の自由を無視されたとして訴訟を起こします。この裁判でも原告や証人、裁判官に対して妨害がありました。富吉が勝利します。司法の独立と選挙の公平

係ある）を歴任しました。昭和二十九（一九五四）年九月二十六日、遊説先の北海道から東京に向かっている際に乗船した青函連絡船・洞爺丸が台風により函館市沖で沈没する事故に遭い、命を落としてしまいました。

一貫して農民の権利向上と社会運動に貢献した人物です。

文責 坂